

## 大方高校『防災デー』（2023/12/15）を実施

防災デーは、中学 1 年生の時に東日本大震災を岩手県釜石市で経験し、震災の語り部活動を行っている紺野堅太様による講話から始まりました。実際に被災をされた方の体験は、生徒にとっても非常に刺激的だったようで、食い入るように話を聞いておりました。震災が起こったとき、自分ならばどう動くのか。この防災デーという時間が、ただ何となく行い、楽しかった、それで終わってはいけないことを自覚し、少しずつ真剣な表情へと変わっていった姿が印象的でした。

講話の後は、避難訓練を実施しました。合わせて、避難経路に関する横断幕のデザインについて地域の方からご意見をいただくという活動を行いました。避難訓練では、「いつも通る道を、「震災時ここは本当に使えるのか」という異なった視点から見つめ、危険性を再認識しておりました。また、横断幕のデザインに関しては、実際に町に住む方々から意見をいただくことで、よりよい形を模索することができました。

避難訓練から戻ってからは、班ごとに避難所運営に係る様々なミッションに取り組みました。シェルパーテントを立てたり、毛布の用意や段ボールベッドの用意をしたり、浄水されたプールの水を試飲するなど、震災を想定した様々な実践的なミッションに、戸惑いながらもしっかりと班ごとに考えて行動していました。

最後に炊き出しと、調理実習を行いました。班ごとに創意工夫を凝らし、食事を用意しておりました。ここでは先ほどまでの緊張した雰囲気も緩和し、和気あいあいと活動しておりました。その姿を見て、運営側の生徒たちは食事の重要性を再認識したようで、カロリーや栄養素を満たすだけでなく、甘味などについても事前に用意しておいた方が良いのではないか、ということをお話しておりました。

生徒と教員が一丸となり、防災デーは無事に活動を終わりました。しかし、このような防災に関する活動は継続してこそ意味を発揮します。今後も様々な活動を行いながら、地域の拠点校として、地域から被害者ゼロ、を目指して活動していきたいと思っております。

